

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 21 日現在

機関番号：32508

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520296

研究課題名（和文）「文芸の共和国」としてのプランタン＝モレトゥス出版工房の総合的研究—第二期

研究課題名（英文） The general study of Officina Plantin-Pretus as “The Republic of Letters” ——the second stage

## 研究代表者

宮下 志朗（MIYASHITA SHIRO）

放送大学・教養学部・教授

研究者番号：60108115

研究成果の概要（和文）：16 世紀にアントウェルペン（アントワープ）に移住したフランス人によって作られた、ヨーロッパ随一の印刷・出版工房を中心として、「文芸の共和国」をキーワードに、広い視野で文学・芸術を見るという目的は、一定の成果を収めることができた。プランタンが出版した『フランドル語・フランス語対照ことわざ辞典』にラブレールの短文が引用されていることを新たに発見した。アントウェルペンで活動したブリュゲル（《フランドルのことわざ》の作者だ）とラブレールとが、「ことわざ」を媒介として、間接的ながらつながった。このことをブリュゲル展のカタログで日本語と英語で発表し、確実な反響を得たのが一例といえよう。また、本研究の実践態として、この 10 年間、ラブレールの翻訳に傾注してきたわけだが、2012 年に『第五の書』を上梓して、この苦しい作業を終えたのも、大きな成果だと思う。そして、この《ガルガンチュアとパンタグリユエル》全 5 巻の翻訳に対して、「第 64 回読売文学賞」「第 18 回日仏翻訳文学賞」という 2 つの価値ある賞を受けることができた。研究者としては、科研費による研究の意義をしっかりと確認することができた。

## 研究成果の概要（英文）：

The Officina Plantiniana, founded at Antwerp by a French emigrant called Christophe Plantin, was the greatest printing-publication studio in 16<sup>th</sup> and 17<sup>th</sup> Century Europe. My study purpose to watch the literature and the art with a broad outlook, in a keyword of “the republic of letters”. I am convinced of the fruit of my efforts. I discovered newly that some short sentences of Rabelais were quoted in the Corresponding Dictionary of Flemish and French Proverbs, published by Plantin in 1568. Thus, the literature of Rabelais was connected, indirectly through proverbs, to the art of Brughel, who was active in Antwerpen. I published this fact in Japanese and in English in the catalogue of the Brughel exhibition and I could get some good repercussions.

For these ten years, I devoted myself to the new translation of Rabelais. I published in 2012 “The Fifth Book” of Gargantua et Pantagruel and finished this hard work. I am pleased with the achievement of my goal. For the translation of all five books, I could get two valuable prizes: “The 64<sup>th</sup> Yomiuri Literary Prize” and “Le 18<sup>ème</sup> Prix franco-japonais de traduction”. For a university researcher, I realised that my work is worth the Scientific Research Funds.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学

キーワード：ルネサンス、出版の文化史、ヨーロッパ、ベルギー、フランス

1. 研究開始当初の背景：

以前より注目して何度か通っていた、プランタン＝モレトゥス博物館が世界文化遺産に指定されたことを契機に、本格的に、この「文芸の共和国」について研究すべきだと考えたこと。創業者クリストフ・プランタンがフランスからの移住者であるにもかかわらず、従来、フランスの印刷業者やユマニストとのネットワークに焦点を当てた研究はほとんどなされてこなかったという現状がある。

2. 研究の目的：

(1) 16世紀後半から17世紀前半にかけて、ヨーロッパ随一の印刷・出版工房として繁栄をきわめた、プランタン＝モレトゥスの広範囲な活動を、「文芸の共和国」のイメージで具体的に把握すること。

(2) 研究の実践態として、関連する文学テクストを翻訳し、広く読書界に訴えかけること。

3. 研究の方法：

プランタン＝モレトゥス博物館での資料調査、プランタンの『家事日記』(未刊行)を再撮影し、転写すること、プランタン『書簡集』の精読など。

4. 研究成果：

(1) 未刊行のプランタン『家事日記』(1561-1574)を再撮影してプリントアウトし、製本した上で、解読を開始できたこと。冊子としたことで全貌が見えてきた。大半は、書籍売買の記録でありながら、時折、個人的な記述が挿入されているので、それをピックアップして転写する作業を始めている(第三期

でも継続予定)。

プランタン『書簡集』は全九巻+補遺一卷で、2000通に達するという膨大な書簡が修められており、通読するに至らなかったのが、第三期の優先課題となる。

(2) モンテーニュも『エッセー』で言及している、当代一の「ユマニスト」ユストゥス・リプシウスの『書簡集』を範読し、モレトゥスが1593年に刊行した仏語版『イソップ』が話題になっていることを発見した。今後、系統について調査したい。

(3) プランタンが刊行したフランソワ・フォートハルス『フランドル語・フランス語対照ことわざ辞典』を詳細に調査して、ラブレールからの引用が3箇所存在することを新発見した。ラブレール研究者には見過ごされていた事実で、同時代における「受容」の一形態として非常に興味深く思われる。この発見を、日本語と英語により発表した。当然ながら、この『辞典』には、ブリュゲル《フランドルのことわざ》で絵解きされていることわざも収録されている。つまり、「ことわざ」を介して、16世紀を代表する物語作家と画家が同居したわけで、象徴的な事例といえよう。

(4) 本研究の実践態として、いくつかの翻訳を遂行中であるが、ラブレール《ガルガンチュアとパンタグリユエル》全五巻(筑摩書房、ちくま文庫、2005-2012)は、ついに完成した。漢文の素養に支えられた渡辺一夫の名訳が、読みづらくなっている現在、価値ある仕事だと信じている。「概要」で述べたように、この翻訳によって、「読売文学賞」「日仏翻訳文学賞」という、2つの大きな賞を受けることができた。なお、渡辺一夫訳のラブレールも、読売文学賞に輝いていることを記しておきたい。

モンテーニュに関しては、『エッセー4』『エッセー5』を上梓することができた。また、フランスマン語版の『ティル・オイレンシュピーゲル』に注目した論文『『ティル・オイレンシュピーゲル』のヨーロッパ彷徨』を収めた単著『神をも騙す』も刊行することができた。

#### 5. 主な発表論文等

(いずれも、研究代表者の単独の業績である)

[雑誌論文] (計1件)

(1) Traduire Rabelais et Montaigne, in *Bulletin de la section française, Faculté des Lettres, Université Rikkyo*, N. 42., 2013, pp. 23-45. [査読有]

[学会発表] (計1件)

(1) Traduire Rabelais et Montaigne, 日本フランス語フランス文学会の一環としての国際シンポジウム「アジアに於けるフランス・ルネサンス文学の受容—翻訳・解釈・交流」、宮下 志朗、2012年6月1日、立教大学、太刀川記念館

[図書] (計5件)

(1) モンテーニュ 『エッセー4』『エッセー5』白水社、2010年/2013年、352頁/383頁。(翻訳・註解)

(2) ニコラ・コンタ 『18世紀印刷職人物語』水声社、2013年、206頁。(翻訳・註解)

(3) ラブレール 『第五の書』筑摩書房、2012年、535頁。(翻訳・註解)

(4) 『神をも騙す』岩波書店、2011年、342頁。(単著)

(5) Close Encounter Between Bruegel and Rabelais, in *The World of Bruegel in Black and White from the Collection of the Royal Library of Belgium*, Bunkamura/The Yomiuri Shimbun, 2010, pp. 56-59. (展覧会カタログ)

[その他]

○受賞：ラブレール《ガルガンチュアとパンタグリユエル》全5巻(筑摩書房)により、次の2つの賞を受けることができた。

(1) 第64回読売文学賞(研究・翻訳部門)  
(読売新聞社主催)

(2) 第18回日仏翻訳文学賞(日仏翻訳文学賞委員会主催、小西国際交流財団協賛)

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

宮下 志朗 (MIYASHITA SHIRO)

放送大学・教養学部・教授

研究者番号：60108115